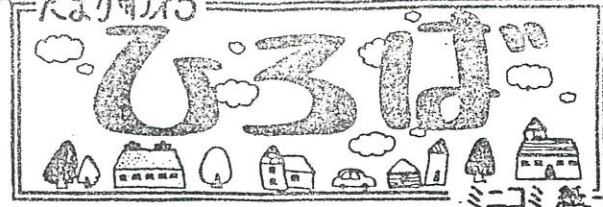


= たまがゆ 5



平成元年3月20日
鈴木 武一
玉川第五出張所
TEL 700-9120

第 16 号
行 責 任
務 局

信國遊開の想い出

上用資三丁目 高橋 清
私が京西国民学校から新
潟県五日町の南雲寮へ集団
原用をしたのは、三年生に
なつたばかりの二十年五月
十八日であつた。疎開といふ
とすぐ思い出すのは榮養失
調になつた事である。

食事は大豆にご飯が少し付いているようなものが少しと、胡瓜いんげんの味噌汁とゼンマイかワラビの漬物で、おやつはサナギのカラの油炒めをサジに一杯であった。空腹の為方エルや桑の束やアサツキを食べたので下痢をしてしまい栄養失調になつてしまつた。学校へも行けず寮の庭石に腰をかけ、毎日シラミ取りをしていた体が衰弱していたので仲間より早く引き揚げて来て、国立第二病院へ通院をした。その頃、私と同じ栄養失調で通院をしていた同級生の女の子は、残念な事に亡くなつてしまつた。

終戦のとき、外地で

山西省臨汾特務機關で終戦の放送を聞く。中国人は我々より早く知っていた。ボーイが、ここで働いていると酷いめにあうから辞めたいと言って来た。夜になると街は騒然とし、人の群らかりが出来る爆竹を鳴らす者もいた。時折銃声もする。我々は身辺整理、機密書類の焼却をする。翌日隣県の保安隊が暴動を起す。この保安隊の武装解除を県知事に通達、無事兵器を押収出来て安堵する。居留民部隊が引き上げ、進駐の中固軍と交替し、臨汾を最後に、我々が引き上げたのは十月中旬だった。

昭和
から
平成

昭和20年3月10日米軍機
B29が東京上空に來襲し夜
中になると空襲警報が鳴る
ので、電気を暗くしたりし
ました。空襲も日増しに激
しくなり、用賀一丁目東條
邸周辺には夜になると焼夷
弾が投下され、五本位畑で
掘り出しました。

い龍 87才
な空 堀 現在の、小坂橋医
の直 院のわきにシュー
れ賀 一と音がして降る様
れ賀 一に投下された焼夷
忘用 弾で、当時青々と
した多畑が一面火の海にな
り、民家も焼失してしまっ
た。又、我が家の30m位先
に大型爆弾が投下された。
この時はまるで台風の時の
風の音であつた。

数時間後に爆発した。



昭和20年
8月15日

四十数年前の事で、だんだん記憶もつれて来ました。暑い日だったと思います、お昼に重大発表があるからというので、みんなでラジオを聞きました。予想もしていなかった事です。すぐには理解できず、しばらくしてからそれは日本が敗けて今日で戦争が終ったのだと、なぜか自然に涙が出てきました。

あの頃は老いも若きも一生懸命働き、がまんがまんの毎日でしたから……平成となり、この様に平和な世の中になるとは、当时は想像も出来ませんでした。

(高橋 達)

へ
わが
ま
終戦前後

大正生れの仲よしグループで旅行をしています。その時、思い出のメロデー集を聞いている人がおりましたので、私がその中から、隣組の歌を採しお誘いしてみますと、さすが、みんな唄えました。それから、隣組の思い出話に花が咲きました。

食料品衣料品の配給、報国債券等の割当もありました。防空訓練では苦勞しました。終戦の頃の隣組には、働き盛りの男の人がいなくなり、やかましかった組長さんも、四十有余年の歳月が流れ、なつかしい思い出の人になりました。(大坪)

あゝ頃
うゝ頃
今頃
・戦中編・
鈴木 武一

色いろクスクス言うけれども
昭和はやっぱりなつかしい
みんな歩いた道だもの
旧憲法だよアノ頃は
花はサクラ木ひとは武士
一銭五厘の（ハカシ）召集令
悲し苦しみもあるけれど
兵隊さんダイ オルチニの三
陸 海 航空 少年兵
トントントンカラリンの 隣組
今でも残る回らん板
何から何まで統制で
衣料キツプに外食券
お米に砂糖に酒タバコ
みんなそろって配給制
内緒でパーマかけるには
炭マキ持参でせにやならぬ
一升ビンの米搗きは
子どもの役目となりました
空地はみんな植えて
ナスダイウリだ南瓜ダイ
代用食のミソ汁は
トウモロコシはんに卒ごはん
親子 天丼 カツ丼は
10年待てとかいてある
学童ソカイや家こわし
挺身隊やら徴用工
何て、たって総動員
学徒兵だいい兄ちゃんは
若い血汐の予科練で
一億一心総ケツ 起
銃後の守りは警防団
空襲 バクダン 焼夷弾
逃げろ 直向 生きろんだ
本土決戦とか言った
ヤケクソ言葉でメツ茶ク茶
東京 大阪 焼野原
広島 長崎 不意打ちに
ピカドン一発ご聖断
ボツダム宣言 ウケ入りで
世界の歴史を変えました
その日は八月十五日

② “ひろば”で希望の方は玉川第五出張所においてありますので どうぞ

郷土紹介

陸軍衛生材料本廠

現在、上野一丁目の高台に国立衛生試験所があり、かつて陸軍の衛生材料本廠と、獣医療材廠があった所です。日本全体が軍国主義体制への道を進むなか、昭和四年、陸軍衛生材料本廠（陸軍への医薬品製造、補給施設）は芝白金より用賀の地に移転してきました。

この施設建設に当たっては約三万坪の用地が陸軍によって買収され、ここで農業を営んでいた人達は、やむを得ず先祖伝来の畑を手離しました。完成後の衛生材料本廠には煙突が高くそびえ、正午になると時報の

サイレンが鳴り、周辺の環境は一変しました。通勤は玉川電車用賀駅より旧大山道（通称ボロ市通り）が利用され、朝晩、この道は人の列が繞ったとの事です。太平洋戦争も終りに近づいた昭和二十年には米軍機29の空襲も受けています。

そして戦後、昭和二十一年二月、この場所には厚生省所管の東京試験所（現在の国立衛生試験所）が引越して来て、新たに私達の生活を健康の面で支える医薬品、食品等の試験研究機関としての役目を担う事になりました。

陸軍衛生材料本廠から国立衛生試験所へとという交還も、身近な昭和史の一頁でしょうか。（飯田）

SPORT スポット

そのとき、若者は、上野六白、松原、昭二、空閑のまま、青年学校で聞いた天皇のわけのわからない放送。荒地を耕し美しい田園にした親達の苦勞、終戦と重なって記憶の底から蘇る。用賀の町に私の生活の原点である。

その時、学校で

終戦直後、京西小の職員室の真ん中に、大きな四角い火鉢が置いてありました。戦中、軍隊が駐屯してあり、したので、机や椅子が相当壊れており、寒い時はその古いのを燃やして、暖をとったものです。（粕江左佳、京西小旧職員、中島郁子先生著）

「小さな足跡」より

世田谷区 明るい選挙推進協議会 玉川第五ブロックより
金権政治は 底無しの泥沼への道 御要領、ごようじん

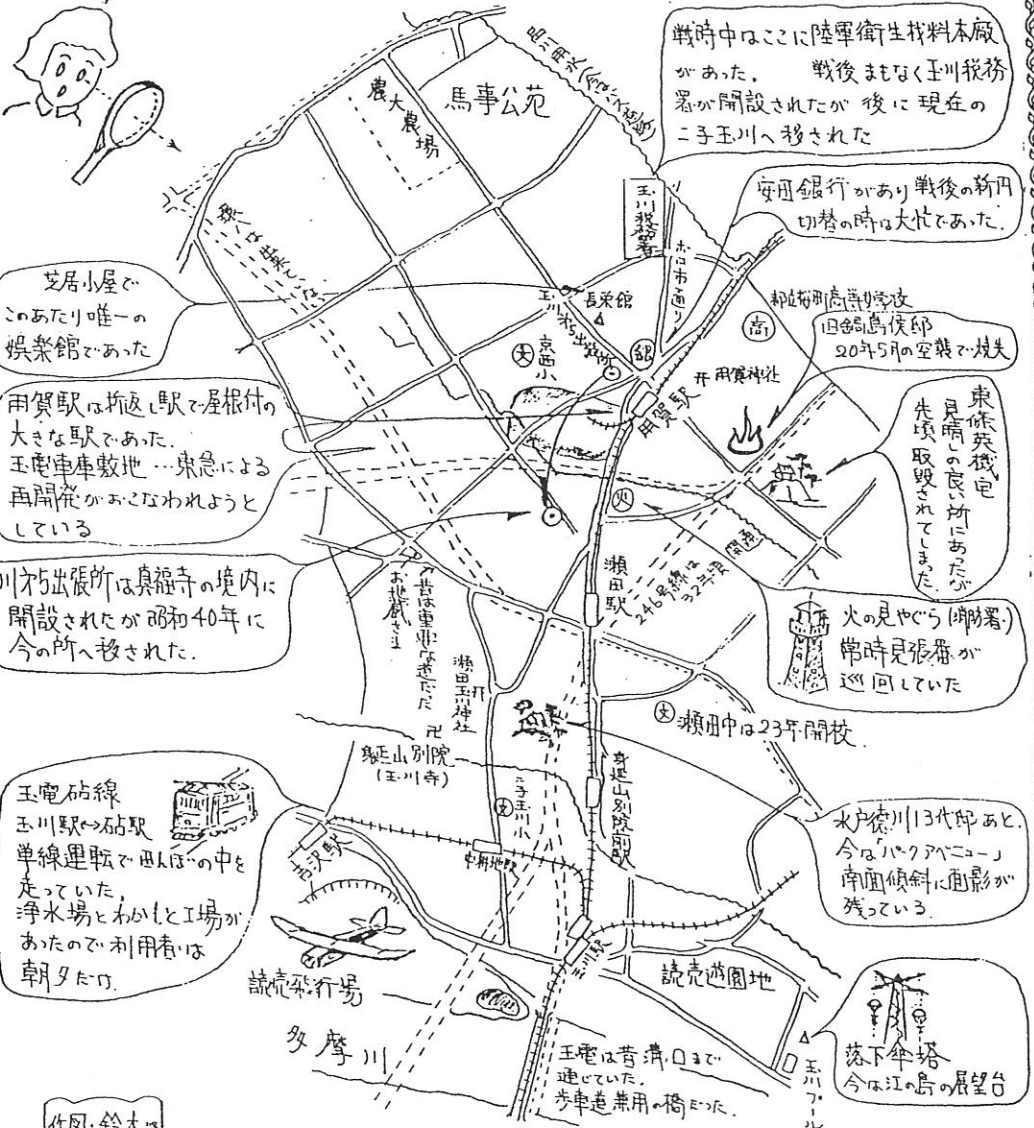
あしがき

昭和の時代が終り、新しい平成へ。地域のみならず、自分史の中での思い出を各々に振り返っておられることでしょうか。

私たちが六十四年の時代の流れの中で、地域の人々がどんなにかかりあいを果たしたかを「昭和から平成へ、私たちのまち（終戦前後）」という一点に、クロージングアップしてみました。（池田）

アレッ!? こんな処に...

昭和22年のころ



戦時中はここに陸軍衛生材料本廠があった。戦後まもなく玉川税務署が開設されたが、後に現在のこ子玉川へ移された。

安田銀行があり戦後の新門切替の時は大忙しであった。

東條英機宅 見晴しの良い所にあったが先頃取壊されてしまった。

火の見やぐら（消防署） 常時見張番が巡回していた。

瀬田中は23年開校。

瀬田山別院（玉川寺）

読売公園

読売飛行場

多摩川

玉川駅

芝居小屋で、このあたり唯一の娯楽館であった。

用賀駅は折返し駅で屋根付の大きな駅であった。玉電車庫敷地...東急による再開案があとなわれようとしている。

玉川五丁目出張所は真禰寺の境内に開設されたが昭和40年に今の所へ移された。

玉電路線 玉川駅～読売駅 単線運転で、田んぼの中を走っていた。浄水場とわかしと工場があったので利用者は朝夕だけ。

玉川六丁目

玉川七丁目

玉川八丁目

玉川九丁目

玉川十丁目

作図：鈴木 三